

女性教職員活躍事例集Ⅱ

～管理職への道のりと伝えたいメッセージ～

余市町立黒川小学校 高橋教頭（前 倶知安町立北陽小学校教頭）



Q お伝えしたいメッセージをお願いします！

誰にとっても働きやすい職場になるためには、お互いに工夫したり、周りに相談したりして、補い合いながら仕事ができる環境を作ることが大切だと感じています。

子育てをしているからこそ分かること、できることがあるはずなので、自分としては、子育て中であることが弱みではなく、強みにできればいいなと思っています。

Q 管理職を志した理由やきっかけは？

自分は学級担任として子どもの成長に関わるのがとても好きで、やりがいを感じていましたので、生涯、学級担任として頑張りたいと考えていましたが、教務主任などの経験を通して、教育課程の編成に携わり、広い視野で学校全体を見たり、先生方と共に様々な発想で仕事をできることは、とても面白いなと感じていました。

二人の子どもが小学生と中学生でしたので、管理職への興味を持ちつつも、管理職を勧めるおかげには何度もお断りをしていましたが、「今後の教員人生がどうありたいのか？」「仕事と家庭の両立を、どのようにバランス良く図っていくのか？」について心が動いていた時期でしたので、前任校の校長先生から管理職を勧められた時に考えるようになったのが、きっかけです。

Q 管理職になるために必要だった支援は？

家庭と仕事の両立に、支障が出ない程度で勤務できる環境がないと、管理職として勤務することは難しかったので、自宅から通勤できる環境を配慮していただいたことは大きな支援で、とても感謝しています。

管理職を目指すことを家族に話した時、反対はありませんでしたし、夫は「協力する」と言ってくれました。夫は自宅近くで自営業でしたので、子どもの病気など家族で何かあった時や、日々の生活の中で足りない部分を補ってくれています。

Q 管理職になって気づいたことは？

教頭は、学校全体を見回して何をどのように進めていくかを考えていかなければなりませんし、地域や他機関との繋がりがとてもあると感じています。

また、よく「教頭は職員室の担任」と言われますが、先生同士の関わりなども広く見えるようになりますね。

Q 管理職のやりがいや魅力は？

学校全体を見渡せることや、いろんな人と繋がれることは、とても有り難いことだと思っています。そして「学校の組織として、こうした方がいい」というアドバイスを先生方が聞いて動いてくれた時は、とても良かったなと思います。

Q 後輩教職員へのメッセージは？

後志管内の若い職員には、優秀な人材が多くいます。微力な私でも教頭の職務を務めていますので、皆さん、是非、自信を持って管理職に挑戦して欲しいと思います。

今は、働き方改革も進み、男性も仕事と育児の両立ができるよう環境が整備されてきていますので、そういう制度も上手に使うことで、当たり前のように女性職員が管理職を目指し、活躍していくのではないかと期待しています。

Q 管理職として子育てを始める職員に対し気をつけていることは？

子どもが小さい時は、急に熱を出して仕事を休まなければならないことがあり、後ろめたさや申し訳ない気持ちを抱えながら働いていたので、子育てで急に休むことがあっても、そのようなことを思わずに休める職場、お互いを尊重し合える職場にしたいなと思っています。

次ページから
インタビューの全文を
掲載しております！
是非御覧ください！

1・管理職を志した理由やきっかけを、お聞かせください。

正直にお話しますと、管理職を目指す気持ちは、一般教員の時はなかったんです。自分は学級担任として子どもの成長に関わることがとても好きで、やりがいを感じていましたので、生涯、学級担任として頑張り続けたいと考えていました。

しかし、教務主任を経験させていただいたことや、外国語の巡回指導を担当している時に、いろんな先生方と一緒に授業作りを進める中で、教育課程の編成に携わり、広い視野で学校全体を見たり、先生方と共に様々な発想で仕事をできることは、とても面白いなと感じていました。

丁度、その頃、管理職を勧めめるお声がけをいただいておりますが、二人の子どもが小学生と中学生でしたので、管理職への興味を持ちつつも、何度もお断りをしていました。

ただ、「今後の教員人生がどうありたいのか?」「仕事と家庭の両立を、どのようにバランス良く図っていくのか?」について心が動いていた時期でしたので、前任校の校長先生から管理職を勧められた時に考えるようになったのが、きっかけです。

今だから言えますけれど、教務主任になった頃は「担任を持ってなくて、つまらない」と思っていたんです。(笑)でも、教育課程を編成したり、いろんな若手の先生に関わったり助言したり、また、教頭先生とのやり取りを通して様々なことを知り得たことは、新たな大きな経験でした。

2・管理職になるために必要だった支援は、どのようなことですか?

当時、後志管内では、管理職になると勤務校の公宅に住まなければなりませんでしたが、管理職へ進むことについて興味はありましたが、夫は自営業を営み、二人の子どもは小学生と中学生でしたので、自分だけが家族から離れて単身赴任することは、家族の状況を考えると難しいなと考えていました。

そんな折り、校長先生から「どのような配慮事項があれば、管理職選考を受検できますか?」と聞かれたので、「自宅通勤を認めていただければ」と、お話したんです。やはり家庭と仕事の両立に、支障が出ない程度で勤務できる環境がないと、管理職として勤務することは難しかったので、今の環境に配慮していただいたことは大きな支援で、とても感謝しています。

そして、家族の支援です。管理職を目指すことを家族に話した時、家族の反対はありませんでした。夫は「仕事と家庭が両立できるよう協力する」と言ってくれました。夫は自宅近くで自営業でしたので、子どもの病気など家族で何かあった時や、日々の生活の中で、それぞれの足りない部分を補ってくれています。

3・管理職になって気づいたことは、どのようなことですか?

教頭は学級担任と違って、学校全体を見回して、何をどのように進めていくかを考えていかなければなりません。また、教頭は地域や他機関との繋がりが、とてもあることを感じています。その対応は意外と楽しいですね。いろんな職種の人とお話することや、町教育委員会との繋がりの大事さも、管理職になってとても感じています。

そして、よく「教頭は職員室の担任」と言われますが、教頭になると、先生同士の関わりなども広く見えるようになりますし、本校は若い教員が多いので「先生方の力量を高めるためには、何をどのように伝えたらいいのか?」を、とても考えるようになりました。私はまだ、自分が描く域には達していませんが、以上が新たな気づきです。

4・管理職のやりがいや魅力を、お聞かせください。

先ほどの話と重複するところがありますが、学校全体を見渡せることは、学級だけを見ている担任時代とは随分違うなと感じますし、いろんな人と繋がれることも、とても有り難いことだなと思っています。

一つの学級だけを良くするのではなく、「学校の組織として、こうした方がいい」というアドバイスを先生方が聞いて動いてくれた時は、とても良かったなと思います。

5・後輩教職員へのメッセージを、お聞かせください。

後志管内の若い職員には、優秀な人材が多くいます。微力な私でも教頭の職務を務めていますので、皆さん、是非、自信を持って管理職に挑戦して欲しいと思います。

また、以前であれば、学校に遅くまで残って仕事をして頑張っている感を出すことを良しとする職場風土があり、子育てをしている女性職員は、学校で働きたくても働けないので厳しい環境でしたし、それを補うために自宅で仕事をすることもありました。

ただ、今は、働き方改革も進み、男性も仕事と育児の両立ができるよう環境が整備されてきていますので、そういう制度も上手に使うことで、当たり前のように女性職員が管理職を目指し、活躍していくのではないかと期待しています。

6・子育てを始める職員に対して、管理職として、どのようなことに気をつけていますか？

子どもが小さい時は、急に熱を出して仕事を休まなければならないことがあり、後ろめたさや申し訳ない気持ちを抱えながら働いていたので、子育てで急に休むことがあっても、そのようなことを思わずに休める職場、お互いを尊重し合える職場にしたいなと思っています。

本校にも子育て中の職員がおりますが、急に休まなくてはならない時に、申し訳なさそうに電話をしてくる人が多いので、「全然、大丈夫。安心して休んでいいんだよ」と伝えていきますし、本校は校長先生が女性ですので、同じ気持ちで対応できていると思います。

7・ご自身が子育てをしている時に、管理職から、どのようなサポートが支えになりましたか？

子どもが病気になった時や、病院に行かなければならない時、また、小学生になると学校行事もいろいろあるので、そういう時に「仕事のことは気にしないで、休んでいいよ」とか「お子さんの行事に行っていいよ」と管理職から言われた時は、とても有り難いなと思っていました。

8・インタビューの最後となりますが、お伝えしたいメッセージはありますか？

誰にとっても働きやすい職場になるためには、お互いに工夫したり、周りに相談したりして、補い合いながら仕事ができる環境を作ることが大切だと感じています。

子育てをしているからこそ分かること、できることがあるはずなので、自分としては、子育て中であることが弱みではなく、強みにできればいいなと思っています。

[インタビュー実施月:令和4年3月]

インタビューにご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。